

A portrait of Marino Formenti, a man with short brown hair, wearing a dark suit and shirt, resting his head on his hand.

羽 村
チャリティー
コンサート

マリノ・フォルメンティ
ピアノリサイタル
Marino Formenti Piano Recital

「撮影：井出恒雄」

2009年
6月23日(火)
18:30開場 19:00開演

羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ 大ホール

マリノ・フォルメンティ ピアノ リサイタル

Marino Formenti Piano Recital



「撮影：松岡さち子」

Program

ハイドン／ピアノソナタ 第44番 ト短調

クルターグ／マルタのための花

クルターグ／涙

ベートーヴェン／ピアノソナタ 第32番 op. 111

—— 休憩 ——

ショパン／2つの夜想曲 第17番 op. 62-1 及び 第18番 op. 62-2

クルターグ／アルベルティ・バスへのはかない思い

クルターグ／ワルツ

ショパン／2つのマズルカ op. 41-2、op. 68-4、

ショパン／2つのポロネーズ op. 26

クルターグ／そして今一度：影

クルターグ／エディソン・デニソフへのオマージュ

マリーナ・ツベターエワ/It's Time

ショパン／バラード op. 23 他

演奏者の都合によりプログラムは変更されることがあります。

Profile

イタリア生まれのピアニストであり、そして指揮者であるマリノ・フォルメンティは彼の現代音楽に対する解釈および創造的かつ大胆な演奏を通じ、同世代では最も興味ある演奏家の一人としての地位を確立してきた。

ロスアンジェルス・タイムズ紙はラクマ(LACMA: ロスアンジェルス郡立美術館)のコンサート・シリーズ前夜祭の記事で「21世紀のグレン・グールドだ。その音楽は聴くものを恍惚とさせ、魔法にかけたように忘れがたいもの…。彼は驚くべき演奏家である。」と、ヴェニス・デイリー紙には「壮大、不気味なほどの先鋭さ…鳴り響く音」、そしてロスアンジェルス・ウィークリーでは「心の浮き立つ未体験の感覚」などと、聴衆やマスメディアは彼の「感動的な演奏」や「素晴らしい集中力」に対しこぞって絶賛している。

彼の最も特筆すべき音楽活動は「PIANO TRIPS」、「NOTHING IS REAL」、「THE PARTY」、「EPICYCLE」、「PIANO INTEGRAL」、「DIALOGOS」、「KURTAG'S GHOSTS」であり、各地の主たる演奏会への出演は、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、エディンバラ国際音楽祭、シュレスビヒ・ホルスタイン音楽祭、ローマのサンタ・チェチリア・アカデミア、ラヴェンナ音楽祭、アスペン音楽祭、ラヴィニア音楽祭、ベルリン音楽祭、ウィーン現代音楽祭、パリのイルカムO R CAM: 音響音楽研究所)、ベルリン・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス交響楽団、ウィーン交響楽団、ケルン放送交響楽団、チューリッヒ音楽堂、東京のサントリーホール、カザルスホール、王子ホール、モスクワのラフマニノフホール等々である。

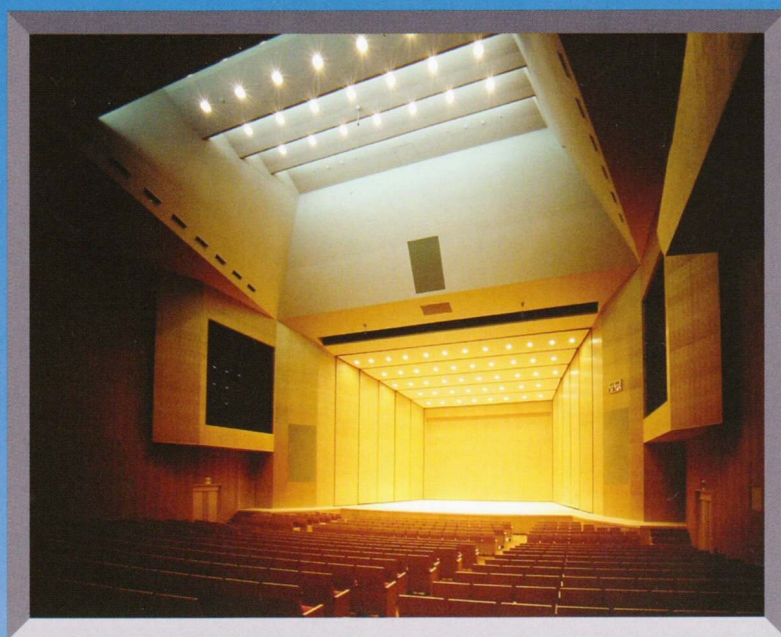
2004年、リンカーンセンターでの「偉大な演奏家シリーズ」において、自身の「PIANO TRIPS」でリサイタル・デビューを飾り、同様のリサイタルをウィーン、ロスアンジェルス、サンフランシスコで行う。またソリストとして、クリーブランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ロスアンジェルス・フィルハーモニック、スイス・ロマンド管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニック管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、ベルリン交響楽団、ウィーン放送交響楽団等の楽団また、フランツ・ウェザーメスト、ケント・ナガノ、エサ・ペッカ・サロネン、シルヴァン・カンブルラン、インゴ・メッツマッハー、ハンス・ゼンダー等の指揮者と共演する。さらに指揮者としてギドン・クレメル、ウルリッヒ・マッテス、マティアス・ゲオルネ、ラース・フォークト、マウリツィオ・ポッリーニ等と共演する。

マリノ・フォルメンティの指揮者としての経歴は、ケント・ナガノ、シルヴァン・カンブルランのアシスタント指揮者として(ウィーン国立歌劇場、ロスアンジェルス歌劇場、パリオペラ座等にて)始まった。数多くの作品の指揮やラヴェンナ音楽祭、ウィーン・コンツェルトハウス、ウィーン音楽祭、ウィーン現代音楽祭、ラヴェンナ音楽祭、ロスアンジェルスMECやウィーン・クラングフォーラムでの指揮を通じ研鑽を重ねてきた。

2008年、ローマのサンタ・チェチリア・アカデミアで巨匠マウリツィオ・ポッリーニの招待で指揮者としてのデビューを果たす。ポッリーニとは2009年ミラノスカラ座やパリで指揮者として共演する予定。また同年、南アメリカのMIAGI(Music is a Great Investment)音楽祭の主宰をマキシム・ヴェングロフ氏より継承し、同音楽祭管弦楽団を指揮する。

カリオス、コロ・レーニョ、BIS等数々のレーベルでの録音も行い、それによる多くの賞を受けている。マリノ・フォルメンティはヘルムート・ラッヘンマン、ジェルジュ・クルターグ、サルバトーレ・シャリーノ、オルガ・ノイヴィルト、ベアート・フラー等現役の偉大なる作曲家・指揮者と恒常的に活動を共にしている。

彼は2009年に現代音楽における功績によりベルモント賞を受けている。



主催／(財)青梅佐藤財団

共催／羽村市教育委員会

後援／青梅市教育委員会 福生市教育委員会 あきる野市教育委員会 瑞穂町教育委員会
日の出町教育委員会 檜原村教育委員会 奥多摩町教育委員会

協力／NPO法人 青梅の青少年を育てる会 ゆとろぎ協働市民の会

お問い合わせ／

NPO法人 青梅の青少年を育てる会 090-5195-3030 npo-sodateru@t-net.ne.jp

ゆとろぎ協働市民の会 042-570-0707 kyodo@hamura-tokyo.jp